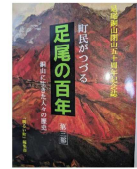


藤村重夫：構成、資料提供
 伊藤章夫：総合監修
 安田朱美：コメント、写真提供

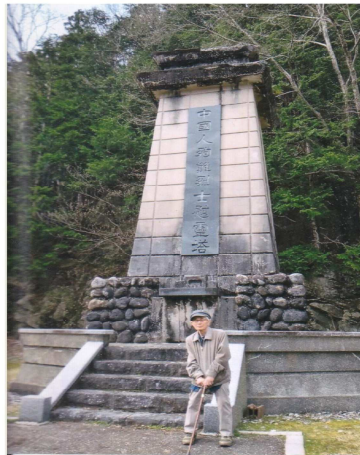
私のみた足尾鉍毒事件、田中正造の
 韓国、中国への暖かいまなざしの旅



太平洋戦争の末期、中国から強制連行されてきた257名が足尾銅山の労働に従事し109名が殉難された。日光市

ここは古河の土地です。碑の後ろ、四角いコンクリートの前で、朝鮮からの参加者は、座り祈りをささげます。

2017年8月5日建立



109個の台座のある塔。この地に立つのに必死に何段の階段を歩いたことか

、、、強制連行された人には一般人も軍人もいました、年齢は17歳から60歳まで、爺ヶ沢つくられた収容所は、嚴重に囲われ四六時中、特高警察や監視人が目をひかせていました。、、、「自力ではトロコから降りられない人も多くいました。次の日から毎日のように死者がでました。、、、いよいよ間に合わなくなると二体入る運搬用の棺で資材節約を指示されました。

書籍【足尾の100年】

あかるい町

P217 強制連行の中国人より抜粋



日本朝鮮友好県民の会

慰霊碑の前の伊藤、藤村さん



ただ寄せ集めのようにある卒塔婆の姿

足尾朝鮮人強制連行犠牲者慰霊碑



立派な慰霊碑などなくても良い。毎年、夏に慰霊祭をやっている、その行為にわたしは頭が下がります。

ひっそりと杉木立の中に佇む慰霊碑

、、、2010年のハングル文字の卒塔婆が立てかけてありました。10年ごとに慰霊祭をしているのですか？と聞くと、毎年夏に慰霊祭をしている、と坂原さんは答えました。

群青色：鉍毒を一時溜めおく庚申川の水

「足尾に緑を育てる会」の理事の一人でもある坂原さんの車で、私たち三人は、立ちがれで一本の木も生えてない山肌に”山桜”の苗木を植えてきました。坂原さん、伊藤、藤村さんと4人、唯一4人の一枚の記念すべき写真です。



坂原さんとの4人の貴重な旅（フィールドワーク）でした。



この群青色が頭から離れません。

台風や大雨が降った時溢れ流れる量を調節し群青色になった池です。車を止め坂原さんは説明してくれました。

(2024年6月) 安田朱美